

A.

1. (D)

2. (ア)

3. 言語は人間の思考様式を一律に規定するものではなく、五感の働き方、時間の長さや時系列の認識の仕方などを緩やかに方向づけることによって思考様式に影響を与える可能性があるという、ウォーフがもともと主張していた内容により近い考え方。(112 字)

4. 言語は意思疎通の手段にとどまらず、抽象概念を具体化する助けとなるものであり、時間のような根本的な概念を理解するための枠組みを提供する。

5. より多くの言語を詳しく調べていくと、時制、人称代名詞、さらにはもしかすると名詞と動詞の区別といった、かつて普遍的なものと考えられていた他の言語的な特徴が見当たらないことがある。

6. (b)

7. 英語の「青」をロシア語では2つの単語で区別する、英語の時制は3つあるがアマゾンの言語ではそれよりも少なかったり多かったりする、といった些細な違い。(73 字)

B.

Studying foreign languages has taught me that culture is closely related to everyday words and expressions. I realized that people from different cultures not only speak differently but also think and value things in a different way. For example, some languages place greater importance on relationships with other people, while other languages respect individuality more. This realization has made me more careful not to judge other people by my own cultural standards. (72 words)